

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

茨高野球部と私

池永 徹
(高21回)

私は、今はなくなってしまう茨木川の堤防を通って、養精中学に通いました。三年間堤防から見えていた茨高野球部の印象は良くありませんでした。また、勉強のことも気になっていましたので、茨高では野球部に入らないつもりでした。ところが、入学後十日程たつと野球の虫がうずいてきました。そんな時に国重先輩(高校20回)に声をかけられ、入部しました。手当たり次第に一年生を勧誘しておられたときに、あそこにいるのが養中のキャプテンだと教えられて私のところに来られたそうです。あの出会いがなかったら、茨高野

球部に入っていなかったかもしれません。そんな私がこの年になっても高校野球に関係しているのですから、不思議なものです。

入部したとき、二年と三年でちょうど九名でした。ところが前日に一人骨折し、プレーできるのは八名しかいませんでした。入部した一年生九人のうちで、中学時代野球の経験があるのは私だけでした。一番最後に入部したにもかかわらず、翌日の練習試合に出るということになりました。それ以後卒業までずっと試合に出してもらい、幸福な高校野球生活を送りました。一年春の大会では二勝しました。あの時は何もかもがうまくいきました。若いOBの方があまりにも喜んで下さるので、二勝ぐらいで上げさなと思いました。でも、あとで考えると無理ありません。高校三年間で二勝したのは、あれが最初で最後でした。夏の大会の戦績は悲惨でした。一年、二年のときはどちらも初戦でコールド負け。屈辱を晴らすと頑張ったかいあつて、三年の夏には一勝できました。たかが一勝ぐらいだと笑われるかもしれませんが、あのときはうれしくてたまりませんでした。ところ

が翌日の新聞を見ると、“茨高六年ぶりの勝利”と大見出しが出ており、勝ったのに恥ずかしい思いをしました。

私達の時代は六時という門限はありましたが、有名無実でした。宿直の先生がおられ、何かあれば対応できるので学校は何も言いませんでした。それで、日が暮れるまで練習しました。私は家まで十分足らずでしたが、夏前には帰宅が八時を過ぎました。弱いから、強くなるためにと長時間練習する。帰りが遅くなって勉強時間が不足し、成績が下がるので退部する。部員が少ないから弱い。今考えると悪循環だったと思います。毎年約十名入部しますが、最後まで残るのは五人ぐらいしかいません。夏に三年生が引退して二年生になると、いつも九人の心配をしていました。八人で練習したこともあり、引退した三年生や、退部した者を呼んできて練習試合をしたこともあります。私が三年のときは、三年生四名、二年生五名の不動のメンバーでした。上級生でちょうど九名でしたので結束は固く、吉田監督(高校18回)のもと力をあわせて戦いました。田中監督(高校15回)、吉田監督をはじめとして、OBの方にはたいへんお世話になりました。野球だけでなく、学業、進学の面でも色々教えて頂きました。いつの時代でも、OB・上級生が後輩の面倒をしつかり見る茨高野球部であつて欲しいと思います。

毎年十数名入部し、十人ぐらいが最後まで残る。こんなチーム状態であれば、必ず強くなると思います。そのためには入部希望者が多く、退部者の少ない野球部でなければなりません。練習内容が厳しくても選手はついてきます。でも練習時間が長いのは、学業を無視できない茨高では耐えられません。効率の良い練習をやり、時間を短くする。これを実践するしかないと思います。

高校49回(一九九七年三月卒業)は、入部者が一人もいませんでした。そのため一時は部員が五人になり、廃部の心配をしました。そんな大変な時期に監督をつとめ、茨高野球部を復活させて下さった太田先生には感謝しています。紙面を借りてお礼申し上げます。この三月で定年退職されましたが、いつまでも茨高野球部を見守っていて下さい。

私は府立高校の教員です。いつの日にか茨高に転勤して、野球部を指導できれば良いのですが。

部長より

責任教諭 中井 仁



硬式野球部OBの皆様にはますますご清勝のこととお喜び申し上げます。

げます。日頃は物心両面からの援助をいただき誠にありがとうございます。さて、この春の大会は、強豪チームを相手に敗れたものの、2-1の接戦を演じ、選手達ともども夏への手応えを感じました。その影響もあつてか、各校チームから練習試合の申し込みが絶えず(マネージャーが活躍しています)、ほとんど毎週練習試合を組ませてもらっています。グラウンドを全面使えるのが、週に一回間だけという厳しい制約がある我がチームとしては、練習試合を勝敗だけでなく、いかに実力向上に振り向けるかということが、チーム育成上のポイントだと思います。

一年生の入部状況は、十一人(内マネージャー二人)と、やや寂しい状況ですが、それだけに野球に対する強い情熱をもった選手達と期待しています。監督の松枝氏、コーチの赤井氏には、忙しい就職運動のさ中にも関わらず、本当によく見ていただいています。末筆ながら、紙面を借りて御礼申し上げます。

OBの皆様方、今年もまた応援・激励のほどよろしくお願い致します。

